

保険・年金 フォーカス

新型コロナウイルスの感染拡大が 保険会社に与える影響(2) —欧州大手保険 G の 2020 年決算発表による—

取締役 保険研究部 研究理事
TEL: (03)3512-1777

中村 亮一
E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

米国や欧州においては、2月下旬から3月にかけて、2020年決算発表が行われている。これまで、新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響については、2020年の4月下旬から5月にかけて行われた2020年の第1四半期の業績発表に関して、保険年金フォーカス「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(1\)—米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 1 四半期業績発表による—](#)」(2020.5.22) 及び「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(2\)—欧州大手保険 G の 2020 年第 1 四半期公表による—](#)」(2020.5.27) で報告した。また、2020年の7月下旬から8月にかけて行われた2020年の第2四半期の業績発表に関して、保険年金フォーカス「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(1\)—米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 2 四半期業績発表による—](#)」(2020.8.25) 及び「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(2\)—欧州大手保険 G の 2020 年第 2 四半期公表による—](#)」(2020.9.1) で報告した。

今回は、こうした米国や欧州の保険会社の2020年決算発表の中から、大手保険グループのCOVID-19の影響等に関する公表内容について、2回に分けて報告している。まずは、[前回のレポート](#)では、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの状況を報告した。今回のレポートでは、欧州大手保険グループの状況を報告する。

2—欧州大手保険 G の公表内容

ここでは、欧州大手保険 G から、AXA、Allianz、Generali、Aviva、Aegon 及び Zurich の状況について、各社のプレスリリース資料等から抜粋して報告する。なお、抜粋箇所における下線付与は筆者による。

1 | AXA

AXA は、その 2020 年の決算発表¹において、COVID-19 について、43 億ユーロの基礎利益に対して、COVID-19 の請求 (Covid-19 claims)² は 15 億ユーロである、として、以前に報告された数値と変わっていない、と報告した。より具体的には、「Covid-19 関連の P&C 請求及び連帯措置による当グループの 2020 年の基礎利益への影響は、15 億ユーロ (税引後及び再保険控除後) だった。この影響は、グループの 2020 年 6 月 3 日の発表及びグループの上半期の結果リリースで提供された見積もりと一致している。下半期のさらなるロックダウンによる影響は概ね中立であり、コマースラインでの追加の請求はリテールラインでの頻度減少のベネフィットによって相殺された。」と述べた。

Thomas Buberl CEO は、「Covid-19 危機を通じて、AXA は社会での役割を積極的に果たし、顧客にサービスを提供し、従業員をサポートすると同時に、中小企業への 7 億ユーロの投資や、フランスやグループが事業展開するその他の国でのその他の連帯措置を通じて経済回復に貢献してきた。」と述べた。また、「取締役会は、当社グループの貸借対照表上の状況、キャッシュ・フロー及び全体的な経営成績、並びに継続中の COVID-19 危機に関連する継続的な不確実性を慎重に検討した結果、一株当たり 1.43 ユーロの配当を提案することを決定した。」と述べた。

なお、事業部門別の影響等については、例えば以下の記述が行われている。

(1) 損害保険

コマースラインの売上高は、2%増加して 317 億ユーロとなった。第 1 四半期の売上高増加 (5%増)、第 2 四半期の COVID-19 の売上高減少 (10%減) に続き、第 3 四半期の売上高が回復 (2%増) し、第 4 四半期の売上高が増加 (7%増) した。この増収は主に AXAXL 保険によるもので、価格面では引き続き好調に推移したが、収益性改善のための引受活動や、COVID-19 における保険事業の縮小による影響が見込まれている。

パーソナルラインの売上高は 1%減少して 170 億ユーロとなったが、これは主に欧州とフランスにおける COVID-19 関連の新契約活動の減少によるものである。

P&C の基礎収益は 51%減少してユーロ 16 億 4400 万となったが、これは主に (i) COVID-19 からの請求、特に事業中断 (1.1 億ユーロ)、イベント中止 (0.6 億ユーロ)、その他のライン (0.5 億ユーロ、主にクレジット、金融、負債、旅行)、連帯措置、その他 (0.2 億ユーロ) によるもので、自動車の減少 (8 億ユーロ) と (ii) 自然災害、特に大西洋における自然災害の頻度が高まった結果、AXAXL の NAT CAT 保険料の値上げによって一部相殺された。

COVID-19 の予測及び NAT CAT の正常化を前提とすると、P&C の基礎収益は 2%増加した。これは、前年度の支払準備率の悪化や投資利益の減少を相殺する以上に、今年度の引受実績が増加したためである。

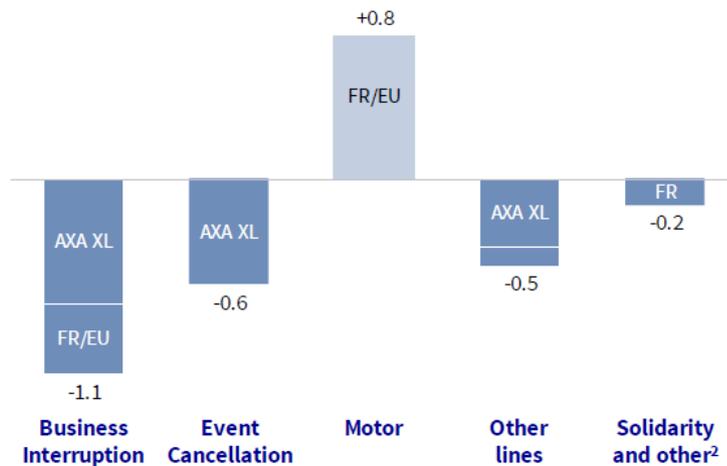
なお、COVID-19 による影響の商品別の内訳及びそのうちの AXAXL 等の内訳の状況は、プレゼン

¹ <https://www.axa.com/en/press/press-releases/full-year-2020-earnings>

² 「COVID-19 の請求」には、P&C、L&S、医療保険の COVID-19 関連の純請求額、ならびに連帯措置及び COVID-19 に関連する費用控除後の取引量の減少の影響が含まれる。「COVID-19 の請求」には、COVID-19 危機に関連する金融市場への影響 (投資証拠金、ユニットリンク手数料、資産運用手数料等への影響を含む) は含まれていない。

テーション資料の中で、以下の図表のように示されている。

(参考) 損害保険 COVID-19 による影響



コマーシャルラインにおける高い影響がリテ0ルラインにおける給付頻度ベネフィットによって相殺され、2020年下半期のロックダウンの影響は中立

事業中断保険のポートフォリオでグローバルに更新時の契約文言の改定

(2) 生命保険及び貯蓄

総収益は6%減少して315億ユーロとなったが、これは第1四半期における大幅な成長(+4%)が、第2四半期(▲21%)、第3四半期(▲6%)及び第4四半期(▲3%)のCOVID-19関連の影響(主にG/A貯蓄)によって相殺されたことによるものである。

(3) 医療

フランスがCOVID-19に関連して保険金請求の頻度が低かったことが、政府が導入した医療保険料への例外的な税金や社会改革に関連して保険金請求の深刻度が高まったこと、及び英国とアイルランドが2019年に例外的に有利な保険金請求が繰り返されなかったことにより相殺されたため、コンバインドレシオは0.5ポイント上昇して94.5%となった。

(参考) 地域別事業部門別のCOVID-19の基礎利益への影響 (プレスリリース資料より)

Underlying earnings in Euro million	Total ⁱ			o/w Property & Casualty			o/w Health ^v		o/w Life & Savings ^v	
	FY20	Change at constant Forex	Change ex-Covid ⁱⁱ	FY20	Change at constant Forex	Change ex-Covid ⁱⁱ	FY20	Change at constant Forex	FY20	Change at constant Forex
France	1,668	-3%	+5%	817	+6%	+21%	57	-31%	792	-8%
Europe	2,621	+2%	-8%	1,668	+7%	-7%	194	-10%	702	-7%
AXA XL	-1,398	-	-52%	-1,313	-	-43%	-	-	13	-3%
Asia	1,247	+4%	+1%	98	+76%	+17%	418	+6%	733	-3%
International ⁱⁱⁱ	469	+7%	-3%	364	+12%	-1%	20	+60%	47	-20%
Transversal ^{iv}	345	-6%	+7%	10	-78%	+40%	4	-	52	-17%
Central Holdings	-688	+14%	+14%	-	-	-	-	-	-	-
Total	4,264	-34%	-4%	1,644	-51%	-5%	693	-1%	2,338	-7%

2 | Allianz

Allianz は、その 2020 年の決算発表³において、COVID-19 について、「2020 年の営業利益は 108 億ユーロで、COVID-19 によるマイナスの影響は 13 億ユーロだった。」とし、「2020 年の業績は、COVID-19 のパンデミックの影響により、特に損害保険事業の業績に影響が出たが、全ての事業セグメントにおいて非常に堅調に推移した。」と述べた。より具体的には、「総収入は 1.3%減少して 1,405 億ユーロ（2019 年は 1,424 億ユーロ、以下同様）となり、営業利益は 9.3%減少して 108 億ユーロ（119 億ユーロ）となった。これは主に、COVID-19 による約 13 億ユーロのマイナス影響によるものである。損害保険事業では、COVID-19 関連の損失、流出の減少、営業投資の減少により営業利益は減少した。」としている。

Allianz SE の CFO である Giulio Terzariol 氏は、「COVID-19 の影響を調整すると、営業利益は前年の記録を上回り、当社の基本的な業績がいかに分散化し、健全であるかを示している。パンデミックの間、当社の資本基盤は強固なままである。」と述べた。

なお、事業部門別の影響等については、例えば以下の記述が行われている。

(1)損害保険

2020 年の営業利益は前年比 13.4%減の 44 億ユーロとなったが、引受結果は、COVID-19 のパンデミックの影響を強く受けた。特にコマーシャル部門でのパンデミック、自然災害による保険金請求の増加、流出による保険料の減少などが影響したが、経費率の大幅な改善により一部相殺された。営業投資利益も減少した。

(2)生命保険・医療

新契約保険料現在価値（PVNBP）は、COVID-19 の規制の影響を受けて、2020 年には 615 億ユーロ（670 億ユーロ）に減少した。減少が最も大きかったのはドイツと米国で、このマイナス効果は、イタリアでの販売数量の増加により一部相殺された。

業利益の事業部門別の COVID-19 による影響は、以下の図表の通りとなっている。

営業利益の内訳

（単位：百万ユーロ）

	損害	生命・医療	資産管理	コーポレート	グループ全体
①2020年	4,371	4,359	2,853	▲831	10,751
②2019年	5,045	4,708	2,704	▲602	11,855
③ ①-②	▲674	▲349	149	▲229	▲1,104
COVID19の影響	▲1,300	▲200	-	-	▲1,500

3 | Generali

Generali は、その 2020 年の決算発表⁴において、COVID-19 について、「当グループの営業成績は、史上最高の 52 億 8 百万ユーロ（2019 年は、51 億 92 百万ユーロ）となった。COVID-19 の業績への

³ https://www.allianz.com/en/press/news/financials/business_results/210219_Allianz-4Q-FY2020-earnings-release.html

⁴ <https://www.generali.com/media/press-releases/all/2021/Consolidated-Results-as-of-31-December-2020-Press-Release>

影響は、▲123 百万ユーロと見積もられている。」と述べた。

また、Philippe Donnet CEO は、次のようにコメントした。

「今日、私たちはパンデミックによって引き起こされた危機のために前例のない状況で得られた優れた結果を提示している。これは、技術的な観点と資本ポジションの両方の観点から、このセクターの同業他社と比較して Generali の回復力が高いことを裏付けている。」

COVID-19 の影響額の状況は、以下の図表の通りとなっている。

営業利益 (COVID-19 の影響)

(単位: 百万ユーロ)

	①2019年	②2020年	③ ②-①	④COVID-19 の影響	⑤2020年 (④除き)
グループ全体	5,192	5,208	16	▲123	5,331
生命保険	3,129	2,627	▲502	▲307	2,934
損害保険	2,057	2,456	399	120	2,336

なお、事業部門別の影響等については、例えば以下の記述が行われている。

(1) 生命保険

当セグメントの営業利益は、26 億 27 百万ユーロ (2019 年は 31 億 29 百万ユーロ) となった。テクニカル・マージン (保険費用控除後) の好業績は、金融市場の悪影響による純投資額の減少及びより重要な部分では、より保守的な長期財務予測を反映したスイスの保険契約者に対する保証引当金の継続的な増加により相殺された。COVID-19 でパンデミックが発生したため、(金融市場のパフォーマンスに関連する投資の減損及び程度は低い) が、特にフランスにおける健康保険の請求額の増加により) 結果として合計▲307 百万ユーロの影響を受けた。

(2) 損害保険

当セグメントの営業利益は、技術的収益性の改善とポルトガルの新会社 Seguradoras Unidas の買収によるプラスの貢献により、24 億 56 百万ユーロ (+19.4%) と大幅に増加した。投資結果の減少は、市場金利の現状を反映した経常利益の減少や株式配当金の減少によるものである。COVID-19 が当セグメントの営業成績に与えた影響はプラスで、120 百万ユーロと見積もられている。

なお、当セグメントの保険料は 221 億 47 百万ユーロで安定していた。グループが事業を行っている国々で広まった前向きな傾向は、とりわけ旅行保険セクターへの Covid-19 の影響を受けた Europ Assistance の大幅な縮小 (▲30.2%) によって相殺された。

また、非営業費用として、COVID-19 特別国際基金への費用が 1 億ユーロ、その他のパンデミック関連イニシアティブに対して、68 百万ユーロが (フランスにおいて、保険セクターに要請された医療制度への特別拠出金 64 百万ユーロ、等) が計上された。

さらに、主として上半期において、AFS 投資に関して 2 億 87 百万ユーロの減損が計上されたことが挙げられている。

4 | Aviva

Aviva は、その 2020 年の決算発表⁵において、全体概要の中で、「Aviva は、COVID-19 と Brexit によって提示された 2020 年の課題に非常によく対応してきた。当社のコア市場は耐性力があることが証明されており、当社の顧客サービスは非常に強力である。より広い経済見通しは依然として不透明だが、世界的な予防接種の取り組みと経済がソーシャル・ディスタンス措置に適応することで進展が見られることはポジティブである。」と述べている。

また、利益への影響については、以下のように記述されている。

「営業利益は、損害保険、一括年金、貯蓄及び退職金の提案で好業績を上げたため、ヘリテージ事業からの利益が徐々に減少したことを反映した中で、COVID-19 の悪影響にもかかわらず耐性力を維持した。バリュー管理業務も IFRS ベースで良好に機能した。COVID-19 の主な影響は損害保険で感じられ、推定影響の合計は 17 百万ポンドの損失になった。コア損害保険市場では、再保険を差し引いた事業中断請求が、販売代理店への利益に応じた手数料の支払いの増加によって抑制された他の商品ラインの経済活動の低下による好影響によって、部分的に相殺されたが、影響は 84 百万ポンドと大きかった。」

さらに、事業の状況に関しては、以下の記述が行われている。

- 2020 年の英国及びアイルランドの生命保険の営業利益は、一括購入年金及び貯蓄及び退職金の好業績と、プラスであるが低いベネフィットの仮定変更が、エクイティリリースと個人保障の新契約販売への COVID-19 の影響によって相殺されたことから、3%減少して 1,907 百万ポンド（2019 年：1,974 百万ポンド）となった。
- 損害保険の営業利益は 3%増加して 5 億ポンド（2019 年：488 百万ポンド）になった。これは、基礎となるパフォーマンスの大幅な改善が、COVID-19 パンデミックの 84 百万ポンドの悪影響と長期的な減少によって部分的に相殺されたためである。
- 英国のパーソナルライン-当社のパーソナルライン事業には、市場をリードするデジタル提案があり、高い顧客支持を推進している。NWP（新契約計上保険料）は 2020 年に 7%減少して 2,232 百万ポンド（2019 年：2,399 百万ポンド）になった。これは、COVID-19 によるロックダウンと流通パートナーの支店ネットワークへの混乱の影響、及び不採算事業の合理化を反映している。
- Aviva Investors の営業利益は 11%減の 85 百万ポンド（2019 年：96 百万ポンド）だった。これは主に、管理可能なコストの削減によって部分的に相殺された収益の減少によるものである。Aviva Investors の収益は、COVID-19 に対応してリスクアペタイトが減少したため、証券貸付による拠出金の減少と、代替戦略に対する需要の減少を反映したオリジネーション・フィーの減少の影響を受けた。

⁵ <https://www.aviva.com/newsroom/news-releases/2021/03/FY2020-results-announcement/>

5 | Aegon

Aegon は、その 2020 年の決算発表⁶において、「米国の株式市場の上昇と資産運用の恩恵及び費用の節約により、税引前利益は 7%増加して 1,029 百万ユーロになった。COVID-19 は、米国での不利な死亡率と良好な罹患率の両方をもたらしたが、互いが大きく相殺されたため、管理可能な影響を及ぼした。」と述べた。

より具体的には、米国において、生命保険における不利な死亡率による影響額 83 百万ユーロが、主として閉鎖 LTC ブロックからの良好な罹患率経験の影響額 91 百万ユーロによって、相殺された。

なお、2020 年下半期における COVID-19 の影響については、例えば、以下の記述が行われている。

販売面では、米国の Transamerica においては、2020 年下半期において、COVID-19 のパンデミックの影響により新規請求件数が減少し、また解約件数が増加したことにより、介護事業における保険金請求の実績は順調に推移した。また、成長市場では、2020 年下半期には、COVID-19 のパンデミックの影響を受けてスペインとポルトガルでの銀行の販売が影響を受け、Growth Markets での新規生命保険販売は 2019 年下半期と比較して 22%減少し、92 百万ユーロとなった。

利益面では、英国において、伝統的な年金及びユニットリンク事業が徐々に縮小したことに加え、COVID-19 のパンデミック及び市場の不確実性が Aegon の保障と販売事業の売上と収益性に影響を与えたことにより、利益は減少した。

また、米国事業については、以下の記述が行われている。

- ・生命保険事業は、2019 年下半期の利益が 77 百万ドルだったのに対して、2020 年下半期は 1 百万ドルの損失を計上した。生命保険収入は、2020 年後半の 96 百万ドルの不利な死亡経験の影響を受けたが、これは 2019 年後半の経験と比較すると、予想通りであった。死亡率の経験は、ユニバーサルライフ商品におけるより高い年齢でのより大きな請求及び伝統的及び定期的生命保険商品におけるより高い請求によって駆動された。これらの請求のうち 83 百万米ドルは死因として COVID-19 に直接起因する可能性があり、残りの不利な死亡経験もパンデミックに起因する可能性が高い。2020 年上半期と比較すると、COVID-19 のパンデミックによる死亡率への影響はそれほど顕著ではない。
- ・2020 年後半の傷害&医療部門の収益は 96%増加して 2 億 21 百万ドルとなった。利益は、1 億 6 百万ドルの良好な罹患率の経験から得られたもので、その殆どは介護保険の閉鎖ブロックに関連していた。新規の介護保険請求件数の減少、死亡率の上昇による請求停止件数の増加、未報告の請求に対する 39 百万ドルの引当金を相殺した。COVID-19 のパンデミックの影響が一段落し次第、新規の介護保険の請求件数の減少が反転すると予想されるため、この支払準備金を設定し、請求が報告された時点で支払いを開始する予定である。さらに、COVID-19 のパンデミックの結果、規制によって必須ではない医療行為が減少し、その結果、他の殆どの医療商品の請求が減少した。2020 年後

⁶ <https://www.aegon.com/contentassets/5ff87ffb6e7745f3a56eef235c6e9285/pr-aegon-1h-2020-results.pdf>

半の収益には、被保険者が死亡したことが判明した場合の、介護保険の支払済み有効契約の見直しによる 24 百万ドルの一時給付も含まれている。収益は、費用の減少と良好な死亡率の経験からも恩恵を受けた。

6 | Zurich

Zurich は、その 2020 年の決算発表⁷において、「事業利益 (BOP) は、COVID-19 関連の影響とカストロフィー損失の増加により、前年同期比 20%減の 42 億ドルとなった。」とし、「COVID-19 に関連する損害保険 (P&C) の請求は、請求頻度の減少を差し引いたもので、4 億 50 百万米ドル (で上半期に報告したものと同じ)。生命及びその他の事業を含むグループに対する COVID-19 の全体的な影響⁸は 8 億 52 百万米ドル」であると述べた。

Mario Greco CEO は、以下のように述べている。

「私たちの結果は、私たちのビジネスの強さ、従業員の敏捷性、そして私たちのデジタル戦略の適時性を裏付けている。私たちは年間を通じて事業を完全に運営し続け、私たちの行動は私たちの強い社会的責任感を強調した。」

「私たちはこれまで以上にお客様との距離を縮め、払戻しや割引、パンデミックの除外の免除、保険料の調整、解約の一時停止、支払いプランの変更やテナントへの部分的な家賃の軽減など、契約上の義務を超えてお客様を支援した。」

「チューリッヒ財団と協力して、最前線の医療チームを支援し、病院の人工呼吸器の製造を支援し、危機のために寄付が枯渇する中、脆弱な人々の世話をする慈善団体を引き続き支援した。」

「私たちは責任ある雇用主として行動し、COVID-19 の入院補償、検査、インフルエンザワクチン接種などの無料の健康保険で人々とその家族を保護した。これは、COVID-19 ワクチンがより広く利用できるようになると拡大する。」

COVID-19 による影響については、プレゼンテーション資料⁹に以下の通りに説明されている。

前に示したように、COVID-19 の発生⁹の全体的な影響は、グループの収益イベントであり続けている。

P&C の引受結果に対する全体的な正味の影響は、請求を考慮し、頻度のメリットを相殺し、発生時に顧客をサポートするための保険料返還と自発的な行動を考慮した後、4 億 50 百万米ドルである。

さらに、COVID-19 は、P&C の引受以外に以下の追加の影響をもたらした。

- ・損害保険：主に Cover-More 及びその他の P&C の影響に関連する 94 百万米ドルの損失。Cover-More は、COVID-19 の発生に対抗するために課された広範な旅行制限の結果として、売上が大幅に減少したことによる影響を受けている。その大部分はネット非技術的結果に含まれており、APAC の引受結果にはごく一部が含まれている。
- ・生命保険：1 億 17 百万米ドルの生命の死亡及び障害の請求と自発的な行動。金融市場のボラティリ

⁷ <https://www.zurich.com/en/media/news-releases/2021/2021-0211-01>

⁸ 現在の評価に基づき、事象の継続的な性質を考慮して、ある程度の不確実性に従う。

⁹ <https://www.zurich.com/en/investor-relations/results-and-reports>

ティは、57 百万米ドルの全体的な影響をもたらし、繰延新契約費の加速償却とユニットリンク手数料の削減に均等に分割された。

- **FMS**（ファーマーズ：ファーマーズマネジメントサービス）は、ファーマーズエクステンジの個人の自動車及び **SME** の顧客への保険料払戻しの付与に関連する手数料の削減の結果として、39 百万米ドルの影響を記録したが、**FMS** 内のコストに関して相殺するメリットはなかった。ファーマーズライフの事業営業利益には、下半期の **COVID-19** に関連する 45 百万米ドルの高い死亡率と、繰延新契約費の加速償却に関連する 6 百万米ドルが含まれている。
- **ノンコア**：金融市場の動きにより、レガシー生命負債の帳簿に関連してノンコアセグメント内で 45 百万米ドルの影響が認識された。

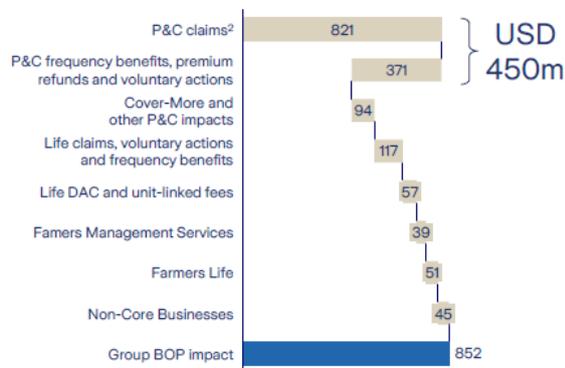
これらの項目に加えて、この発生は全ての事業及び地域のトップラインの成長に悪影響を及ぼし、特にラテンアメリカでの通貨の不利な動きや一般的に再投資の利回りの低下などの他の二次的な影響ももたらした。これらの項目の特定の動きを **COVID-19** に直接帰属させることは困難であるため、これらは **COVID-19** からのグループの収益への推定影響には含まれていない。

また、**COVID-19** による影響の構成や、事業別及び地域別の内訳については、同じプレゼンテーション資料の中で、以下のように示されている。

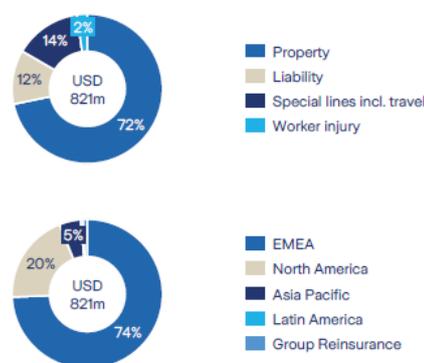
COVID-19 remains an earnings event; P&C claims net of frequency benefits stable at USD 450m



FY-20 COVID-19 GROUP BOP IMPACT (USDm)¹



FY-20 PROPERTY & CASUALTY CLAIMS



¹ Not included are either impacts from volume changes or exchange rate movements related to COVID-19 nor other management actions.
² Net of reinsurance including aggregate reinsurance cover.



3—まとめ

以上、今回のレポートでは、欧州大手保険グループの 2020 年決算のプレスリリース資料等から、**COVID-19** の影響等に関する公表内容について報告してきた。

[前回のレポート](#)でも述べたように、各社の公表内容は、各社各様で、その説明資料等も様々である。その意味で、今回の報告は、あくまでも各社の公表資料の中から、筆者が抜粋したものを報告しているので、この

レポートで報告されたものが全てではないことを述べておく。

いずれにしても、今回報告した欧州大手保険グループ各社とも、前回の米国大手保険グループや大手再保険グループと同様に、2020年決算において、COVID-19によって、事業全体が広範な影響を受けたことを述べており、その説明を行っている。また、損害保険(再保険)事業を中心に、収益面での影響も大きなものであったことを公表している。一方で、同時に、これらのCOVID-19の影響にも関わらず、会社の財務状況の堅固さや顧客対応等の業務運営は揺るぎないものである等との声明も公表している。

COVID-19については、各種の変異型の蔓延等、いまだ事態が進展中であり、引き続き不透明な要素が多いといえる。ただし、有効なワクチンが開発され、先進国を中心に一般に幅広く普及していく過程にあると見込まれていることから、今回報告した欧米の大手(再)保険グループにおいては、基本シナリオとしては、2021年におけるCOVID-19による直接的な財務面への影響は大きなものになるとは想定していない。即ち、COVID-19を巡る状況は一定安定したものになると見込んでいるようである。

今回のCOVID-19を含むパンデミックに関するテーマは、引き続き最もホットなテーマであることから、このテーマに関する米国や欧州をはじめとした世界各国の保険会社や監督当局等の動向については、継続的にウォッチしていきたい。

以上